

第 1 回館山市議会定例会会議録

(第 4 号)



1 平成8年3月12日（火曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 23名

2番 本橋 亮一  
4番 小幡 一宏  
6番 鈴木 順子  
8番 増田 基彦  
10番 宮沢 治海  
12番 植木 馨  
14番 永井 龍平  
16番 鈴木 忠夫  
18番 日下 君敏  
20番 神田 守隆  
22番 榎本 春光  
25番 飯田 義男

3番 三上 英男  
5番 忍足 利彦  
7番 斉藤 実  
9番 島田 保  
11番 秋山 光章  
13番 脇田 安保  
15番 山崎 雅己  
17番 岩村 勝弘  
19番 川名 正二  
21番 山中金治郎  
24番 福原 勤

1 欠席議員 2名

1番 辻田 実

23番 石井 昌治

1 出席説明員

市長 庄司 厚  
収入役 川上 義雄  
総務部長 神子 純一  
経済環境部長 小沼 晃  
水道課長 谷貝 実

助役 小幡 清之  
企画部長 永野 修  
市民福祉部長 渡辺 富雄  
建設部長 三平 孝司  
教育委員会  
教 育 長 高橋 博夫

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一  
書記 四ノ宮 朗  
書記 小山 真

事務局長補佐 鈴木 哲  
書記 安田 仁一  
書記 松浮 郁夏

1 議事日程（第4号）

平成8年3月12日午前10時開議

議案第1号 平成8年度館山市一般会計予算

議案第2号 平成8年度館山市国民健康保険特別会計予算

議案第3号 平成8年度館山市老人保健特別会計予算

議案第4号 平成8年度館山市ユースホステル特別会計予算

日程第1 議案第5号 平成8年度館山市学童災害共済事業特別会計予算

議案第6号 平成8年度館山市下水道事業特別会計予算

議案第7号 平成8年度館山市水道事業特別会計予算

議案第8号 平成8年度館山市国民宿舎事業特別会計予算

開 議 午前10時08分

◎副議長（山中金治郎君） 本日の出席議員数23名、これより第1回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎副議長（山中金治郎君） 日程第1、議案第1号乃至議案第8号、平成8年度一般会計及び各特別会計予算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

◎副議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

なお、発言の際はページ数をお示しくくださるようお願いをいたします。

20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 議案第1号、館山市平成8年度一般会計予算案及び議案第8号、国民宿舎事業会計予算案について、通告いたしました5点にわたってお尋ねをいたします。私の質問は予算書の事項別明細書に沿って行ってまいります。

まず第1点、43ページ、市長交際費についてであります。650万円が予算計上されております。昨年来、いわゆる官官接待が全国各地の自治体で問題になり、世間の批判を浴びました。こうしたことが起きる背景には、行政の姿勢として、住民の血税を預かっているという意識がないことが問題でありました。と同時に、行政情報が公開されずにいたことがこうしたことを生み出す温床になりました。税金の使われ方について、主権者であり、また納税者である市民がその情報開示を求めるのは当然の権利ではないでしょうか。また、それにこたえる責任が行政にはあるのではないのでしょうか。全国各地の自治体で情報公開条例などがつくられていますが、この情報公開についてどのようにお考えになっておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

第2点、70ページであります。老人福祉費の中で配食サービス事業委託料についてお尋ねをいたします。この新年度の予算の中でお年寄り世帯への食事の宅配サービスを実施するということであります。これまでたびたび私はこの事業の実施を求めてきたところでありますが、いよいよ新年度で実施の段階に立ち至ったことと理解するわけであります。そこで、その実施に当たって、市としてはいつからどのように実施することを考えているのか、また実際にサービスを受ける立場からすれば、どのような内容で実施されるのか、市の考え方をお聞きしたいと思うのであります。これらの点についての御説明をいただきたいと思います。

次に、80ページであります。環境衛生費の水質検査委託料についてお尋ねをいたします。議案の説明書によりますと、環境保全のために、残土埋立地などの下流域において水質検査をし、残土からの浸出水のチェックを行うとのことであります。この残土埋め立てに関連して、せんだっての三上議員の岡田地区の残土問題についての行政一般質問のやりとりを踏まえ、お尋ねをいたします。

まず第1点は、服部建材が進入路の造成を行いました、その造成に当たって、県との事前協議がなく、したがって優良農地林地保全特別措置要綱に違反して行われたものと思うわけではありますが、この点についてどのようにお考えになりますか。進入路造成は違反行為である、この認識をお持ちであ

るか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、市に対して残土埋め立ての申請が現時点では未提出とのことでありましたが、事前に相談はあったものと思います。私は、この予定地は災害対策上大変大きな問題を持っているところであり、そうした地域の特徴を十分に踏まえ、申請に対処すべきだと思うわけであります。そうした点から、市の認識をお尋ねいたします。

この予定地域は、昭和48年10月28日の大雨で大量の土砂が流出し、下流域の岡田地区の農地等、大きな被害を受けました。このときの災害の規模は大変大きなものでありましたが、当時の記録によれば、被害として、田の流失、埋没は12.5ヘクタール、畑の流失、埋没は6.8ヘクタールというもので、館山の土砂災害としては最大規模のものと思うのです。その災害規模についてどのような認識をお持ちになりますか。

また、当時山砂の採掘を行っていた業者に対して、県は流出してきて田に積もった土砂の取り除きをさせています。集中豪雨とはいえ、業者の責任として処理をさせているわけであります。これは、山砂採取の始まる前にやはりそれ以上の豪雨がありましたが、被害が生じていないことから、業者の責任は明らかであったからと思います。集中豪雨などの被害が生じた場合、それが自然災害なのか、業者の不法行為によるものなのか、問題になるところであります。この業者の責任のあり方についてどのように考えられますか。

次に、残土の埋め立てと水利権の関係についてどのようにお考えか、お尋ねをいたします。残土埋め立ての許可に当たって、その下流域で埋め立てをした地域からの流水を農業用水等に長年にわたって利用してきたという場合、それらの利用者には水利権が認められます。残土の埋め立て許可に当たって、これら水利権者の同意が不可欠と思うのであります。もしそれなしに市が許可したとなれば、権利侵害の不法行為を市が容認したことになります。この水利権者の同意についてどのようにお考えになっておられますか。

次に、91ページであります。負担金補助及び交付金の一番最後の補助金のところであります。土地改良施設維持管理適正化事業補助金についてお尋ねをいたします。説明書によりますと、安房中央ダムの施設の維持にかかわる

事業とのことであります。中央ダムの受益者の多くはまた館山市民であり、中央ダムの水利は館山市農業を支える重要な水であります。この中央ダムの水なしに館山の農業は語ることができないと言っても過言ではなからうかと思ひます。ところが、事もあるうに、この中央ダムのすぐ上流部の二の滝沢を埋め立てるなどの大規模な造成を行うゴルフ場が計画されているわけあります。土石の移動量は中央ダムの容量の数倍という大規模なもので、大雨などの土砂崩壊で中央ダムそのものが埋没しかねません。中央ダムの受益者が危惧を感じるのは当然のことであります。この安房中央ダム上流部に計画されているゴルフ場開発、嶺岡カントリークラブについて、安房土地改良区の受益者ら 700人の反対署名が昨年12月に県に提出されました。また、こうした中で2月26日には、県環境影響審査会の答申を踏まえ、土地利用計画の変更を求める千葉県知事の意見書が開発業者に対して出されました。ことしの5月22日が県の開発許可期限ですので、この県知事の意見書は業者にとっては大変厳しい内容で、事実上計画を進行させることは無理ではないかと思うのであります。この嶺岡カントリーのゴルフ場開発計画について、市長はどのようにお考えになっておりますか、お聞かせをいただきたいと思ひます。

次に、議案第8号、館山市国民宿舎事業会計についてお尋ねをいたします。事項別明細書の287ページないし317ページであります、302ページないし303ページをお開きいただきたいと思ひます。平成7年度の企業会計による予定損益計算書では、1年間の経常損失1,311万円、赤字予算の見込みであります。この結果、年度末の累積赤字は1億500万円が見込まれます。結果的に市民の血税をその補てんに使うということになりかねない問題点があるかと思うのであります。事業として赤字であっても、それが市民の福祉の向上等に寄与しているんだとすれば、それとして意味のあることであります、確かに国民宿舎事業では、60歳以上の市民への割り引き利用などの福利厚生事業が行われていることはそれとして評価できますが、経営全体からすれば一部のことでございます。この1億余の事業の赤字という問題についてどのようにお考えになられるか、お聞かせをいただきたいと思ひます。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第1号平成8年度館山市一般会計予算、市長交際費に関連いたします情報公開についての御質問でございますが、現在国において情報公開法の制定に向けて審議中でございます。その動向等を見ながら検討してまいりたいと考えております。

次に、老人福祉費に関します配食サービス事業についての御質問でございますが、配食サービスは、国の新ゴールドプランにおきまして重要性が指摘されており、また館山市老人保健福祉計画の中におきましても計画されております。館山市におきましては、平成8年度より実施しようとするものでございます。その内容は、ひとり暮らしの高齢者等で食事の調理が困難な者を対象といたしまして、週5日間の昼食の配食サービスを計画しております。利用者の負担金につきましては300円程度とし、開始時期は9月ごろを予定しております。

次に、環境衛生費に関します残土埋め立て及び林地開発の許可についての御質問でございますが、優良農地林地保全特別措置要綱に基づきます事前協議は、館山市を經由し、千葉県へ提出するものでございます。御質問の点につきましては、昨日、3月11日午後提出されました。

また、土砂災害につきましては、昭和48年10月28日に、御意見のとおり、233.0ミリメートルの集中豪雨によりまして、砂採取場から岡田地区の水田、水路に砂が流出した経緯がございます。

なお、慣行水利権につきましては、河川法制定以前の慣行上の河川の流水の使用権をいうものと理解しております。

次に、土地改良施設維持管理適正化事業に関します中央ダム上流部のゴルフ場開発について、この御質問でございますが、昨年9月議会でも御答弁申し上げましたとおり、安房中央ダムにつきましては、農地保全の観点から大変重要な水源と認識しております。開発行為の進展につきましては、その後の変化はないと伺っておりますが、今後ともダム機能の低下がないよう関



係団体に要望してまいりたいと考えております。

次に、館山市国民宿舎事業特別会計予算に関します鳩山荘についての御質問でございますが、国民宿舎鳩山荘は、地域の観光振興を目的といたしまして昭和35年に開設され、昭和55年に改築し、その後16年を経過いたしました。最近に至り、周辺の施設が増改築されたこと等によりまして利用率が低下し、経営面で厳しい局面を迎えております。今後の対応につきましては、館山市新行政改革大綱により、公営企業経営合理化検討部会を設置いたしまして、施設の役割、機能、運営方法等、多面にわたり検討を進める予定でございます。

以上でございます。

◎副議長（山中金治郎君） 20番議員神田さん。

◎20番（神田守隆君） 情報公開についてでありますけれども、現在情報公開条例は全国のほとんどの都道府県でつくられて、この千葉県にもあるわけであります。きのう、きょうの新聞を見ていまして、この情報公開条例に基づいて開示した情報の中で、これはまずいということで、虚偽の開示をしたということで、秋田県の例が報道されておって、とんでもないことだなと思いましたが、いわゆる官官接待の問題が非常に大きな問題になったというのも、やはり情報が開示されるというこの情報公開条例、これが持っていた意味というのは大変大きかった。この情報開示によって、次々に都道府県に行っているこういう官官接待なりの不明朗な実態が住民の前に明らかになっていった。それが大きな社会問題になっていったわけであります。こういう情報公開条例を持つということは、それだけ透明な行政といいますか、住民に開かれた行政をして、何もやましいことはないんだと自ら証明することにもなるわけで、行政としても大変重要な課題だと思うんです。

情報公開法ということで、全国的に法律として整備される動向を見ながらというんですけれども、都道府県にとどまらず、もともとこの情報公開というのは山形県の小さな町から条例というのがつくられて始まったことで、むしろ都道府県という大きなものよりも市町村というような小さな自治体の方がやりやすいんです、本来。そういう要素を持っていると思うんです。国の

法律の制定を待つという言い方もあるんですが、既に市町村でも次々にこの情報公開条例を持って自らの行政の透明性を高めている、こういう市町村もふえているわけです。千葉県内でもこうした——千葉県はもちろんでありますけれども、千葉県内の市町村でもこういう条例を制定する動きが広がっているかと思うんですが、こういう状況についてどういう認識を持っておられるか。そして、市自身としてこの情報公開について積極的に進めていく。国の動向を見ながらというようなことではなく、市の事業としても考えていくんだ、こういうようなお考えがないのかどうか、お聞かせをいただきたいなと思います。

それから次に、残土の埋め立ての問題で、きのうですか、優良農地林地保全特別措置要綱に基づく申請が出された、こういうお話でありますから、ということは、市自身としては、既に行ってしまったこの進入路の造成は、これはこれとして違反である、こういう認識を持っているというふうに理解するんですけれども、そういうことでよろしいかどうか。

それから次に、昭和48年の大雨で大きな被害がもたらされたわけで、このときの状況は、山砂の採取の許可を——千葉県が出していた許可が8万6,431立米、こういう許可を出していて、その山砂採取をしていたところから大量の山砂が流出した。これに対して、千葉県がそれは全部取り除きなさいという指導をしたという、こういういきさつです。その山砂採取の許可量が8万6,431立米であったという、この数字に対して、まだ申請が出されていないといいながらも、20万立米の盛り土という問題が相談段階であるにしろ出された、話があったということは大変ゆゆしき問題ではないか。私は端的に言ってあれなんですけれども、その8万6,000の山砂採取量よりもかなり下回るような数字でなければ、230ミリからの大雨があった場合に、これは再び大規模な——今度は山砂じゃなくて、残土の流出という形で被害が出る可能性が十分考えられるのではないか。この辺についてどのような認識をお持ちになれるか、お聞かせをいただきたいと思うんです。

それから3つ目は、水利権の問題で、慣行水利権ということでこれは認められるというようなことで、そうすると、その慣行水利権の水利権者という

のは、これは一体だれなのかという問題ですが、慣行水利権の水利権者は現にその水を利用している人であって、水利組合ではなくて、個々の人が水利権者であるというふうに通常言われるわけです。したがって、こうした水利権者個々の同意なしにこれを侵害するというような開発行為をするということは、これは民法上の権利侵害の不法行為になるということになるわけですから、こういうことはないようにしなきゃいけない。それを市が許可という形で容認するということはやはりできないんでないかな。この辺の関係をどう考えているか、お聞かせをいただきたいと思います。

以上です。

◎副議長（山中金治郎君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） ただいま神田議員の方から情報公開の精神といえますか、そういったものについて、それは御指摘のとおりだというふうに考えるわけでございます。市としてどうかということですが、先ほど市長の答弁にもございましたように、国でも今いろいろな形でこの法案に向けた検討をされておる。それと、今千葉県内では30市のうち7市が制定済みである。こういったところからも、いろいろな条例化に向けての情報等を積極的に把握しまして、館山市としてどうすればいいか、そういった問題を検討していきたいと思えます。

以上です。

◎副議長（山中金治郎君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 岡田の残土の埋め立ての御質問についてお答えをいたします。

まず第1点目でございますが、優良農地林地保全特別措置要綱に違反をしているのではないかと、市としてはどういう認識を持っているかということですが、御指摘のとおり、私どももこれは違反であった、こういうふうに認識をいたしております。ただ、事業者の方にこれを指摘いたしましたところ、0.3ヘクタールを超えないというような判断をしていた、こういう回答がございました。いずれにいたしましても、違反であったという認識を持っております。

それから、昭和48年の大雨によります災害、そのときの砂の採取量に比べて埋め立て土量が相当多い。これは、この事前協議申出書の中にも今回19万立方メートルという数字が出ております。御指摘のとおりでございますが、これにつきましては、残土条例等の中でその数字、いわゆるその埋め立てが適正であるかどうか、そういうような部分につきましては慎重に審査をしてまいりたい、このように考えております。

それから、水利権の問題でございますが、水利権というのは通常的には河川の流水に対して発生をするというふうに私どもは受けとめているわけですが、水利権者の同意なしに市が残土条例に基づく許可を与えるということは考えておりません。その辺は地域の皆さんと十分協議をしながら審査を進めてまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎副議長（山中金治郎君） 20番議員神田さん。

◎20番（神田守隆君） 情報公開の問題でありますけれども、市としてもいろいろ考えていきたいというふうに受けとめます。

それで、これは本当に腹立たしい話なんです、役所における文書管理の問題で、こんなばかげたことがあっていいのかということが厚生省のエイズに関する文書の問題です。ああいう文書管理のあり方というのは、本当に人をばかにしているというか、ひどい話だ。館山市役所に関しては、ああいうことは絶対あってはならないと思うんです。とんでもない話で、こういう公文書のあり方という問題について、やはり市の行政の姿勢としてもどうあるべきなのか。そして、住民に対していつでもどうぞ見てください、こういうふうにしていくということは、市自身が持つ各種の公文書を、すべてその分類もきちんとして、いつでも見られるようにする、すぐに対応できるようにする、こういうことのわけです。大臣がかわったら、途端に今までないないと言っていた文書が出てくるみたいな、ああいうていたらくというのは絶対あってはならないと思うんです。

これは市長さんに限らず――市長さんがかわったら出てきたとか、そんなばかなことはあっちゃいけないわけで、これは館山市としてきちんとさせて

いくんだ。市長さんのお考えとしても、この行政文書のあり方、これがいつでも市民に公表されていくんだという、こういう方向というのは基本的に進めていくべきだというふうなお考えをお持ちになるかどうか。それを具体的にどうするという問題をいつどこかという検討まではまだ今の段階ではあるいはないかもしれませんが、市長さんの姿勢としてどうかという点をお聞かせいただけたらと思うんです。

それから、残土の問題でありますけれども、19万立米で協議書が出されたということでもありますから、やはり大変大きな量で、私らも、先ほど指摘した8万6,000立米という数字からも、これは非常にかけ離れている数字だと思うんで、これは8万6,000立米よりかなり下回らないと危ないんじゃないか。率直なところ、8万6,000取ったその跡地に20万入れるというんですから、8万6,000取っているときに大災害が起きているんですから、だから8万6,000よりかなり下回るような量でないと——我々は素人かもしれませんが、市民の立場から常識的に見ると、これはとんでもない数字だなというふうに思うんです。

そこで、残土条例では、安全性を確保できないものについては市長は許可してはならないという、そういう決め方をしているわけなんです。許可をしてはならないというような決め方をしているものですから、極めて市長さんの責任は重い。本来しっちゃいけな許可を出しちゃったということになるわけですから、そういう点でこの19万という数字についてどう考えるのか、そして私が指摘した8万6,000という山砂の採掘許可量のこの数字をどういう数字というふうに認識をされるか、お聞かせをいただきたいと思います。

◎副議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 神田議員の最初の御質問の情報公開の問題でございますが、私は「館山市政は市民とともにある」を宣言し、そのとおり歩んでおります。その基本的ないき方は、市民と行政との相互理解、お互いに納得できるもので、そして納得のもとに協力し合うという、これが現代の21世紀になろうとするときの日本のといいますか、民主政治の根本だろうと思うんです。国の政治であろうと、地方の政治であろうと、これでいかなきゃいけ

ない、こう考えています。そういう考え方で行政展開をしているわけでございます。市内のいろんな機関との情報の交換、これはもう密接にやっておりますし、市民のいろんな組織的な会へも進んで情報交換のために出かけておりますけれども、これからも好ましい連携を保ちながら、その情報をさらにお互いに深めてまいりたいと考えております。

以上です。

◎副議長（山中金治郎君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 砂採取量と埋め立て土量との問題でございますけれども、確かに御指摘のとおり、砂の採取量は8万6,000立方メートル程度ということでございます。これは面積が――面積によってどうこうということでございせんが、当時は1.2ヘクタールでこの量を採取をしている。今回は、事前協議の申出書の内容でちょっと申し上げますと、全体の開発区域の規模につきましては3.9836ヘクタールということでございますが、そのうち埋め立て面積につきましては1.7ヘクタール、こういうような数字でございます。

いずれいたしましても、先ほども御答弁いたしましたように、残土条例の基準に合わせまして審査をし、それによって、じゃどの程度の土量であれば大丈夫だとかというような、そのような内容までも入った審査をしてまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎副議長（山中金治郎君） 以上で20番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結をいたします。

#### 予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎副議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております議案第1号乃至議案第8号、平成8年度各会計予算につきましては、9名の委員をもって構成する予算審査特別委員会

を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、決定をいたしました。

重ねてお諮りをいたします。ただいま設置されました予算審査特別委員会委員の選任につきましては、委員会条例第8条第1項の規定により、

3番議員 三上 英男さん

4番議員 小幡 一宏さん

6番議員 鈴木 順子さん

7番議員 斉藤 実さん

11番議員 秋山 光章さん

13番議員 脇田 安保さん

16番議員 鈴木 忠夫さん

18番議員 日下 君敏さん

22番議員 榎本 春光さん

以上9人を指名をいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

ただいま選任されました委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承をお願いをいたします。

#### 日程の追加

◎副議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

ただいま発議案第1号住宅金融専門会社の不良債権処理に関する意見書についてが提出されました。この際、本案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

#### 議案の上程

◎副議長（山中金治郎君） 発議案第1号住宅金融専門会社の不良債権処理に関する意見書についてを議題といたします。

#### 議案の配付

◎副議長（山中金治郎君） 議案を配付いたさせます。

#### （議案配付）

◎副議長（山中金治郎君） 議案の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

#### （書記朗読）

◎副議長（山中金治郎君） 朗読は終わりました。

#### 議案の内容説明

◎副議長（山中金治郎君） 提出者の説明を求めます。

22番榎本さん。御登壇願います。

#### （22番議員榎本春光君登壇）

◎22番（榎本春光君） 発議案第1号住宅金融専門会社の不良債権処理に関する意見書について、提案理由を御説明申し上げます。

御承知のとおり、現在、住宅金融専門会社、すなわち住専の不良債権処理問題について、国会は混乱し、国民の間においても大きな論議を巻き起こしております。本市議会としても、国において、その真相を徹底的に究明することはもちろんでございますが、不良債権の処理に当たって、国民の理解が得られるような対策を講じること、さらに今後金融行政の根本的改革を推進し、再発防止に努めるよう強く要望いたしたく、8名の賛成者を得まして本案を提案した次第であります。

満場の皆様の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎副議長（山中金治郎君） 説明は終わりました。



## 質 疑 応 答

◎副議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

## 委員会付託の省略

◎副議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略いたします。

## 討 論

◎副議長（山中金治郎君） これより討論を行います。

討論ありませんか。

20番議員神田さん。

◎20番（神田守隆君） 本案の住宅金融専門会社の不良債権処理に関する意見書に賛成の討論をいたします。

この住専問題というのは、非常に大きな国民の憤激を買っている問題であります。税制度に対する国民の信頼を根本から損ないかねないほど深刻な問題かと思うのであります。バブルでさんざん大もうけをし、悪いことをして、そういう会社の不良債権のために我々の税金を投入するんだ、そんなことは許せない、これは国民の本当に怒りの声だと思うのであります。6,850億円の血税投入に対し、全く筋の通らないものであることは国民の一致したところだと思うのであります。政府自身が、事の是非は別として、追加措置策なるものを提案してきたこと自体、政府自身がこの6,850億円の血税投入に対して大変問題があることを自ら認めたも同然であります。にもかかわらず、6,850億円の血税投入に政府がこだわるのは全く理解できない、筋の通らな

い話だと思うのであります。

私は、この意見書決議の中で、不良債権の処理に当たっては、国民の理解が得られるような対策を講じることとしているわけではありますが、こうした意見書では極めて不十分であると思うのであります。6,850億円の血税投入はするべきではない、こういうような趣旨がぜひ盛り込まれるべきであるというふうに考えるところでありますが、しかしそうした意味も含めまして、大変問題はあるという点で不満を感じるわけではありますが、同時にこの住専問題に関し、その真相の解明、また関係者の責任の徹底した究明、こういう点をこの決議の中では指摘をし、大変重要なことだと思えます。一部不十分な点がありますが、決議全体としては非常に積極的な内容もあるというふうに理解をし、この意見書に賛成いたします。

以上です。

◎副議長（山中金治郎君） ほかに討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

#### 採 決

◎副議長（山中金治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

#### 延 会 午前10時56分

◎副議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明13日から21日まで委員会審査のため休会、次会は3月22日午前10時開会とし、その議事は、議案第1号乃至議案第38号等に係る各委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは3月22日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第1号乃至議案第8号
- 1 予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任
- 1 日程の追加・発議案第1号